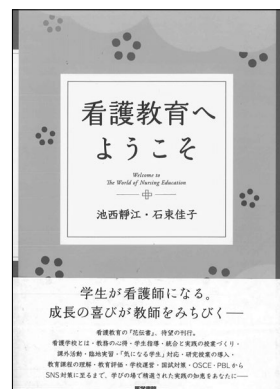


『看護教育へようこそ』

40年の蓄積から語られる
看護教育の真髄と醍醐味著：池西静江・石束佳子／定価：本体 2,800 円＋税
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657

看護の高等教育化の勢いは未だに留まることを知らない。一方で、大学を上回る数の看護専門学校が看護師育成の主力を担っている。その専門学校教育ひとすじに40年間歩み続けた著者が、「これだけ打ち込める職業と出会えたことに勝る幸せはない」と、教師の立場と学生を目線から専門学校教育の「よさ」と魅力を、共著者との意見交換をふまえて隈なく語ったのが本書である。

教育のキーワードは「変化」であるといい、「待って、現れる変化こそ、人として、援助職者としてのやりがい」、その積み重ねが教員のやる気につながり、その過程での学生との相互作用により教員自身も変化成長するという。まさに著者らのこの経験知は、教育全般に通じることと受け止めた。

全体が18の柱で構成されていて、4番目の柱を読み終える頃には、看護教育の展望をふまえた看護教員のあり方が浮き彫りになる。「教えるとは希望を語ること、学ぶとは誠実を胸にきざむこと」とのアラゴンの言葉が、著者らの教育への思いの全容を語り、読む人それぞれが直面している問題と重ねると、さらに枝を広げる可能性を秘めている。

そして、本書の多くでは、看護実践能力の向上をめぐる授業づくりを中心に、看護教員の授業力の磨き方から評価方法に至るまで丁寧に述べられている。新参教員を悩ませる学生とのつきあい方についても、決してきれい事では済まず、こんな

場合にはどうすればよいかを具体的に展開している。どの頁にも、教員であれば誰でも思い当たる事例を通して、理念を具体化する道筋が述べられている。

最終章のお二人の対談は圧巻である。30年間に醸成された息の合った同士の率直なやりとりが楽しい。「大学も専門学校も看護を学ぶうえでの指定規則は同様であるが、実践者としての看護師を育てるには、都道府県管轄の専門学校の指導要領は厳しく規定されていて、とりわけ臨床実習時間数において大学を上回っている実情がある」とは、職業人育成から見た専門学校の優位性とも言え、専門学校教師としての自負心の根拠でもあろう。確かに大学教育では、それぞれの専門領域で卓越した教師がいても、他領域との交流が日常的にあるわけではなく、実習時間数の読み替えなどによる臨床実践能力への影響は無視できない。したがって、「異なった価値観や経験を持った教員が一丸となって手塩にかけた教育のできることが楽しい」というのは、決して強がりではなく真実であると思う。ここでは、教員である前に一人の女性(人間)としての思いや生き方にまで触れた会話がされていて、本書を手にした者が「教育って面白い」という著者らの気持ちに心底共感できる。

看護教員はもちろん、多くの看護師のみなさまにぜひ読んでいただきたい書である。